

2021年度 環境経営活動レポート

対象期間： 2021年5月21日～2022年5月20日

発行日： 2022年11月28日

マロール株式会社

653-0037 兵庫県 神戸市長田区大橋町 2丁目1番34号



エコアクション21[®]
認証番号 0000716

沿革	2
組織概要	4
I. 事業所名、及び代表者名	4
II. 所在地	4
III. 環境管理責任者及び担当者連絡先	4
IV. 事業の内容	4
V. 事業の規模	4
対象範囲《認証・登録範囲》	5
I. 認証・登録番号 0000716	5
II. 認証・登録事業者	5
III. 対象事業活動	5
IV. 対象事業所	5
V. 対象従業員	5
VI. 対象サイトの概略	5
VII. レポートの対象期間および発行日	5
VIII. 実施体制	6
環境経営方針	7
環境経営目標【2021年からの中期目標】 2021年6月設定	8
環境経営計画と実施内容	9
環境経営目標、環境経営計画の実績・取組結果とその評価	10
I. 二酸化炭素排出量削減	10
II. 廃棄物排出量の削減	12
III. 上水使用量の削減	14
IV. コピー用紙購入量の削減	14
V. 化学物質の管理100%達成	15
VI. RoHS規制対応資材の購入100%達成	15
VII. 環境配慮製品の拡販	16
環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	17
I. 適用される主な環境関連法規制等	17
II. 法令違反、訴訟等の有無	17
代表者による全体評価と見直しの結果と指示	18
I. 全体評価	18
II. 見直しの結果と指示	18
2022年度以降の取組内容	19
I. 2022年度からの中期目標（2022年6月設定）	19
II. 2022年度環境レポート発行	19

沿革

1938 王子精機工業株式会社として設立



航空機用エンジン部品の製造から始まり、航空機用油圧遠隔操作装置の設計～製造を行いました。

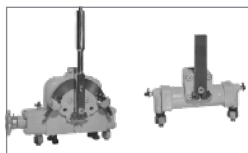
大戦末期には紫電改戦闘機の引っ込み脚、空戦フラップなどの油圧機器製造を担当しました。

1945 ダンプカー向け油圧シリンダーの製造



戦後の復興期、油圧技術を活用した様々な油圧機器を開発し試行錯誤する中、ダンプカーの昇降用油圧シリンダーの製造が本格化。新たな柱となりました。

1950 船舶用油圧リモコン装置の開発製造販売開始



自社開発自社ブランド第一号として貨物船などの大型船舶のクレーン、アンカー、ウインチなどを甲板上から遠隔操作する「マロール油圧リモコン」の製造販売を開始。現在も生産が続く極めて息の長い製品となっています。

1970～ 小型船舶用油圧操舵装置の開発製造販売開始



重労働だった漁船など小型船舶の舵取り。この仕組みを油圧化することで負担を画的に改善する操舵装置を開発。紆余曲折を乗り越えて製品化しました。その後ユーザーの要望と技術の発展により、エンジンの操作をリモコン化するエンジンリモコンや、目的にまで自動で舵を取るオートパイロットなど様々な機器が誕生しました。

2000～ 油圧機器と電子制御で船舶操船をトータル制御



バラバラだった舵やエンジンの操作に加え、複雑化する操船機器をトータルでコントロールする機器を開発販売開始。容易に船舶を一定位置に留めることで漁や船釣りの操船が飛躍的に簡単になりました。

2020～ より高度な自動・自律操船の製品化へ

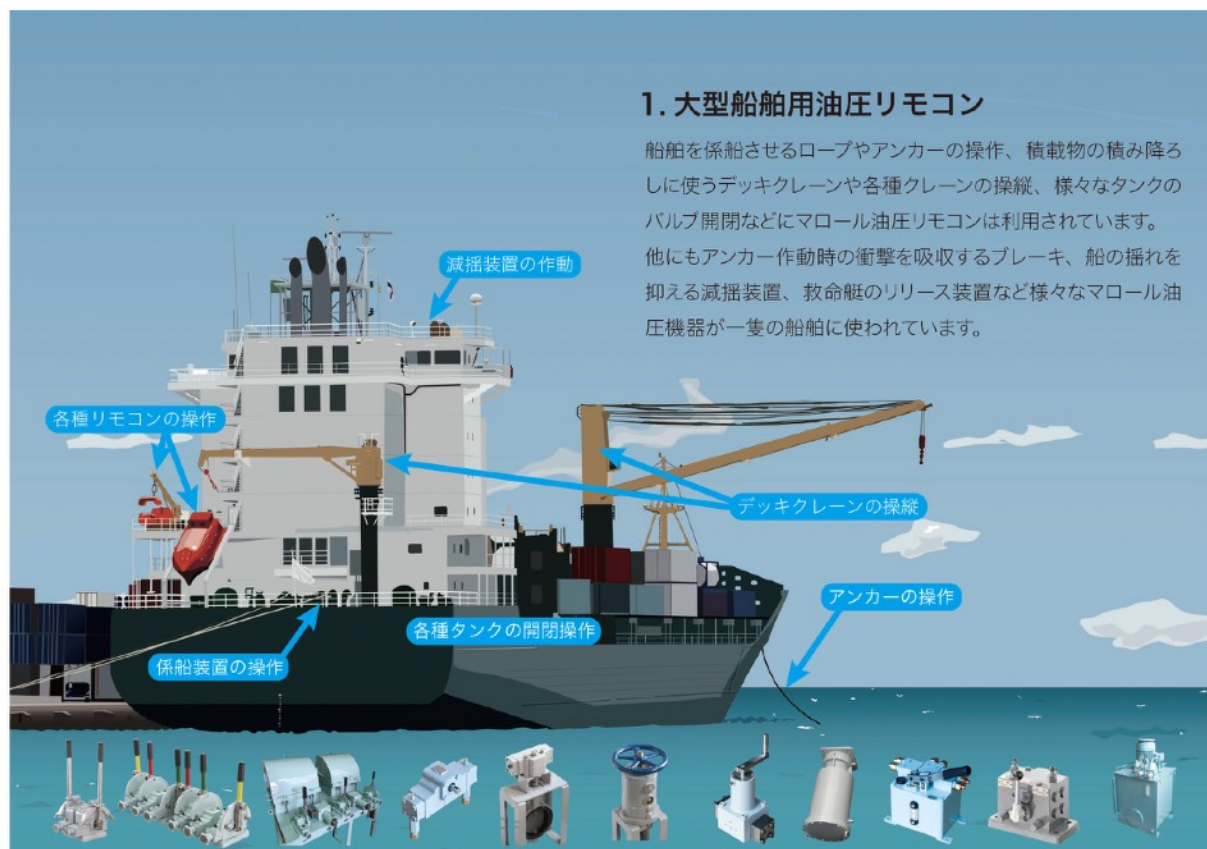


自動運転車の技術を応用した自動・自律制御システムを開発中。自動離着岸・定点保持・自動回避など、より安全且つ操船者の負担を減らす機能で海洋産業の持続性向上に繋がる機器開発を推進しています。

マロールの製品

1. 大型船舶用油圧リモコン

船舶に係船させるロープやアンカーの操作、積載物の積み降ろしに使うデッキクレーンや各種クレーンの操縦、様々なタンクのバルブ開閉などにマロール油圧リモコンは利用されています。他にもアンカー作動時の衝撃を吸収するブレーキ、船の揺れを抑える減揺装置、救命艇のリリース装置など様々なマロール油圧機器が一隻の船舶に使われています。



2. 小型船舶用操船システム

プレジャーボート、漁船、釣り船、作業船など小型船舶の操船作業を掌る機器をラインアップ。

高度な統合制御システムや自動操船、位置保持システムも製品化し、船舶の操船に関するあらゆるニーズに対応しています。



組織概要

I. 事業所名、及び代表者名

マロール株式会社

代表取締役社長 兎田 朗彦

II. 所在地

本社・工場	〒653-0037	神戸市長田区大橋町2丁目1番34号	従業員数 73名
札幌営業所	〒003-0022	札幌市白石区南郷通15丁目南1-25 ティアナビル1階D号室	従業員数 1名
東京営業所	〒101-0023	東京都千代田区神田松永町7番地3 ヤマリビル402	従業員数 2名
福岡営業所	〒815-0073	福岡市南区大池1丁目23-15 高崎ビル7号	従業員数 5名
			合計 81名

(2022年5月現在。本社・工場は神戸営業所を含む)

III. 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	常務取締役	兎田 正憲
連絡担当者	業務部総務課	鶴巻 由樹子
連絡先	電話：078-611-2158	Fax：078-641-5856

IV. 事業の内容

産業分類：一般機械器具製造業

船舶関係の油圧及び電気・電子油圧式制御システム・機器の設計、製造、販売、サービス

下記自社開発製品を製造・販売。

大型船舶向け

甲板機械（デッキクレーン、カーゴクレーン、ウインドラス、ムアリングウィンチ、トーイングウィンチ等）の油圧及び電気・油圧式遠隔制御装置、バルブ開閉制御装置、他。

小型船舶向け

手動油圧操舵システム、アシスト式操舵システム、電気・油圧式動力操舵システム、オートパイロットシステム、エンジンリモコンシステム、姿勢制御システム、サイドスラスター制御システム、ウォータージェットコントロールシステム、エンジン制御盤、方位ディスプレイ、他。

その他開発依頼製品の設計・製作

V. 事業の規模

売上高	：1,286百万円 (2022年5月期)
主要製品出荷量	：116.4トン
従業員数	：81名（正社員、有期雇用、契約社員を含む）
本社延べ床面積	：7,309 m ²

対象範囲 《認証・登録範囲》

I. 認証・登録番号 0000716

II. 認証・登録事業者

マロール株式会社

〒653-0037 神戸市長田区大橋町2丁目1番34号

III. 対象事業活動

船舶関係の油圧及び電気・電子油圧式制御システム・機器の設計、製造、販売、サービス

IV. 対象事業所

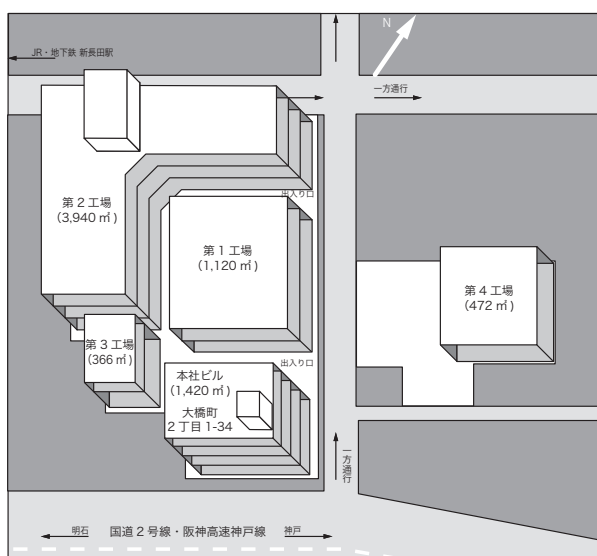
本社・工場、東京営業所、札幌営業所、福岡営業所

V. 対象従業員

組織内で働く正社員、有期雇用、契約社員を含む全ての従業員。

但し、他の組織に所属する人には適用しない。

VI. 対象サイトの概略



本社・工場：神戸市長田区大橋町2丁目1番34号

延べ床面積 7,309㎡

札幌営業所：札幌市白石区南郷通15丁目南1-25 ティアナビル1階D号室

延べ床面積 42.77㎡

東京営業所：東京都千代田区神田松永町7番地3 ヤマリビル402

延べ床面積 25.48㎡

福岡営業所：福岡市南区大池1丁目23-15 高崎ビル7号

延べ床面積 66.0㎡

VII. レポートの対象期間および発行日

対象期間：2021年5月21日～2022年5月20日

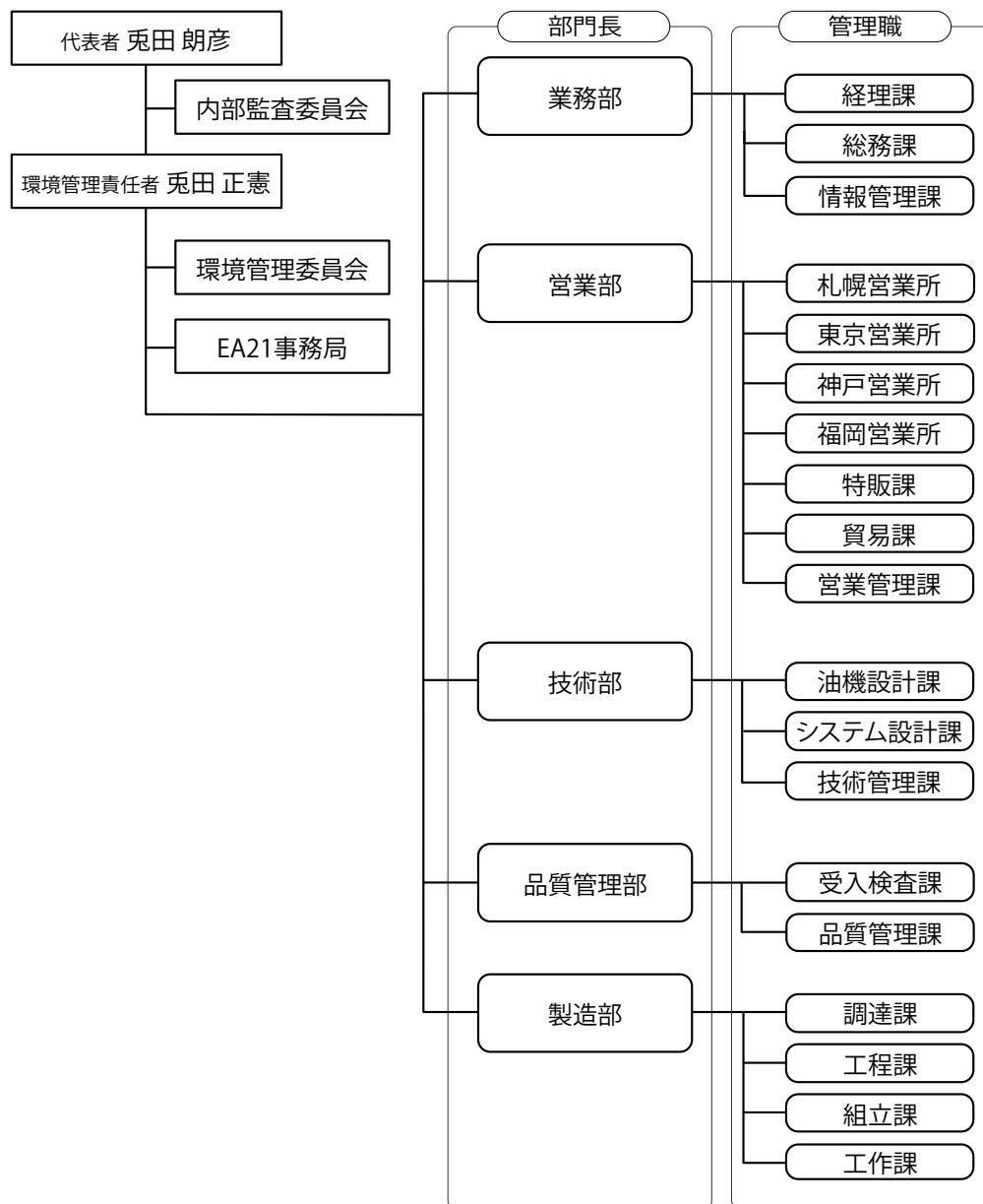
発行日：2022年11月28日

VIII. 実施体制

環境経営システム 実施体制図

2021年5月時点

(EA21-004 Ver2.4)



※役割・責任・権限はマニュアルにて規定

環境経営方針

企業理念

当社はWe have NEXTの理念のもと、油圧機器・電子制御機器の開発・生産・販売に至る一貫したシステムを構築し、独自性・先進性・商品価値に優れた製品を提供することでユーザーの満足度向上に貢献します。

課題とチャンス

・課題

技術進歩に対する取組。熟練技能の継承。老朽化設備の更新。若手の獲得育成。コストの削減。海外市場への進出。

・チャンス

個々の製品の統合制御化による新たな製品魅力の創出。ユーザーニーズをくみ取った製品の商品化。開発～生産～販売～サービスまでを一貫して自社で行う体制。小型船舶の操船をトータルでコントロール出来る製品群と技術力。国内小型船舶向け操船システムにおけるマーケットリーダーとしての長年の実績。

環境への取組の重点分野

- ・業務や製造工程におけるの省エネ推進（電力、ガス、水道等）を行い二酸化炭素排出量の削減、廃棄物の削減につなげる。
- ・環境に配慮した製品の開発と販売。
- ・営業活動などにおける自動車の省エネ推進。
- ・業務における紙使用量の節約。

その他

環境経営の継続的改善を実施するとともに、環境関連法規などを遵守します。

この環境方針は全従業員に周知するとともに社会にも公開します。

2005年8月5日 制定

2020年2月10日 改定

マロール株式会社

代表取締役社長 兎田 朗彦

環境経営目標 【2021年からの中期目標】

2021年6月設定

目標項目	単位	2021 目標	2022 目標	2023 目標
1 二酸化炭素排出量の削減 (製品ton当たり)	kg-CO ₂ /t	2,745	2,738	2,729
1.1 電力使用量の削減	kWh	530,000	500,000	500,000
1.2 自動車燃料 (燃費)	km/l	16.00	17.00	18.00
1.2 自動車燃料 (ガソリン+軽油)	リットル	22,000	20,600	20,000
1.3 都市ガス使用量	m ³	63,000	50,000	50,000
2 廃棄物排出量の削減 (製品ton当たり)	kg/t	303	303	303
2.1 一般廃棄物	kg	5,500	5,500	5,500
2.2 産廃排出量	kg	40,000	40,000	40,000
3 水使用量の削減 (製品ton当たり)	m ³ /t	12.67	12.67	12.67
水使用量	m ³	1,900	1,900	1,900
4 コピー用紙購入量の削減	枚	280,000	280,000	280,000
5 化学物質使用量の管理	%	100	100	100
6 RoHS規制対応資材の購入	%	100	100	100
7 環境配慮製品の拡販 (実績の確認)	%	100	100	100
製品出荷重量	ton	150	150	150

目標値は過去実績を元に維持管理、もしくは状況変化に応じて改善することを目的としています。
注意：2021年度実績を元に見直した目標値を19ページに記載しています。

製品ton＝各製品の標準的な重量×出荷台数より算出。

電力の二酸化炭素排出係数には2017年度調整後排出係数を使用。

(北海道電力＝0.678、関西電力＝0.418、九州電力＝0.463。単位＝kg-CO₂/kWh)

コピー用紙使用量→購入量に名称を変更しました。(集計方法は変更なし)

拠点別目標 (2021)		合計	本社	札幌	東京	福岡
電力使用量	kWh	530,000	523,000	1,800	-	5,200
自動車燃料 (燃費)	km/l	16.00	16.00	16.00	16.00	16.00
都市ガス使用量	m ³	63,000	63,000	-	-	-
水使用量	m ³	1,900	1,835	40	-	25

札幌営業所＝2019/1増員し事務所移転。電力などの使用増加を見込んだ推定値。

東京営業所＝電力、都市ガス、上水は賃貸(共同利用)のため集計不能。

福岡営業所＝オール電化のためガスは不使用。

環境経営計画と実施内容

計画項目	計画達成手段	日程	対象者	把握者
1 二酸化炭素排出量の削減				
1.1 電力使用量	・節電活動の徹底 空調温度の調整、必要に応じたオンオフ 不要な照明の消灯 工場設備の不要電源を落とす デマンド装置の活用	毎日	全社員	事務局
1.2 自動車燃料使用量	・運転記録の記入、燃費計算の実施、エコ運転の推進など	毎日	運転者	事務局
1.3 都市ガス使用量	・春/秋の空調機器使用削減、空調温度の調整など	季節ごと	事務局	事務局
2 廃棄物排出量の削減				
2.1 一般廃棄物	・分別の徹底、リサイクルの促進など	毎日	全社員	事務局
2.2 産廃排出量	・廃棄物の分別の徹底、リサイクルの推進など	毎日	全社員	事務局
3 上水使用量の削減				
上水使用量	・節水活動の継続推進、空調機器の定期点検など	必要に応じて	全社員	事務局
4 コピー用紙購入量の削減	・両面コピーの徹底、廃紙の再利用、PDFの利用促進など	毎日	全社員	事務局
5 化学物質の管理	・SDSの完備、保管・使用時のチェック、管理徹底など	毎日	事務局	事務局
6 RoHS規制対応資材の購入	・製品開発時に調達部材が対応品かチェックする、等		営業部・業務部	事務局
7 環境配慮製品の拡販	・環境負荷低減型製品(オートパイロット)への切替を進める	毎日	営業部	事務局

※オートパイロット＝船舶の針路を自動的に保持し、操船者の負担軽減を軽減します。さらに航行ルート of 蛇行やズレを抑制することで、燃費削減・航行時間削減などの効果があります。

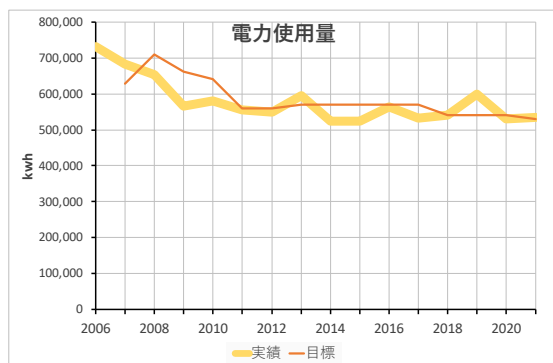
環境経営目標、環境経営計画の実績・取組結果とその評価

I. 二酸化炭素排出量削減

目標項目	単位	2020 実績	2021 目標	2021 実績	前年比	目標 達成率
1 二酸化炭素排出量の削減 (製品ton当たり)	kg-CO ₂ /t	2,788	2,745	3,669	+32%	66%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	405,405	411,737	427,396	+5%	96%
1.1 電力使用量の削減	kWh	529,871	530,000	535,620	+1%	99%
1.2 自動車燃料 (燃費)	km/l	15.58	16.00	16.86	+8%	105%
1.2 ガソリン/軽油 (使用量)	リットル	18,032	22,000	15,981	-11%	127%
1.3 都市ガス使用量	m ³	63,321	63,000	74,176	+17%	82%
製品生産量	ton	145.4		116.4		

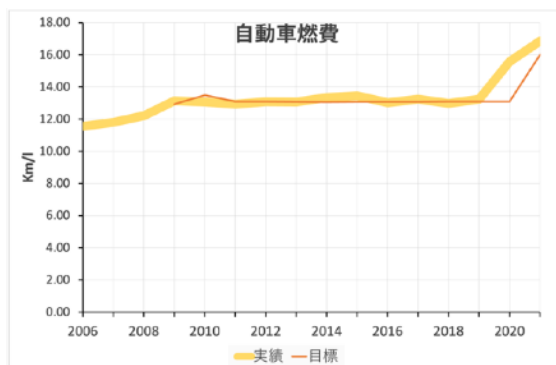
コロナ禍の暖房対策として石油ストーブを利用したが、使用状況の管理のみとしています。

取組結果



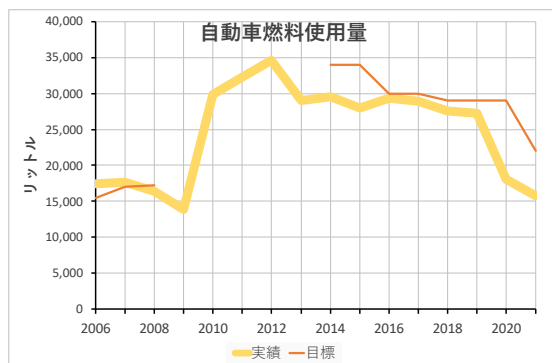
★電力使用量

2020年度とほぼ同様の実績で、目標には僅かに及びませんでした。空調機器の効率低下による影響を除けば目標クリア及び、継続的な使用量削減は続いていると考えられます。



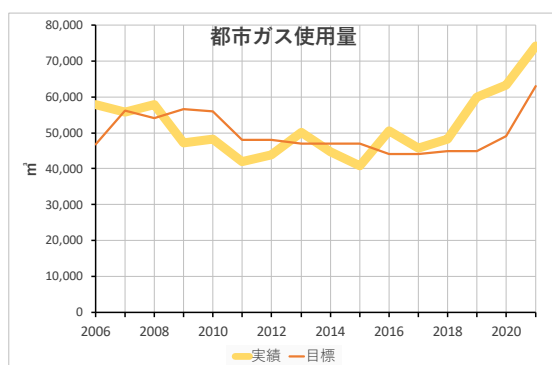
★自動車燃費

2020年度よりハイブリッド車の導入を開始し、約半数が低燃費車になりました。この結果平均燃費は2020年度に続きさらに16.86km/lまで改善することが出来ました。



★自動車燃料使用量

コロナ禍による移動量減少は2021年度も続き、燃料使用量は目標の22,000ℓを大きく下回りました。



★都市ガス使用量

2018年からの使用量増加は空調機器劣化に伴う効率低下、残業時間の増加、季節要因などが重なったものと思われます。2020～2021年はコロナ対策として換気を推進したことで空調機器の使用率がさらに高まりました。

評価と次年度取組内容

自動車燃料は燃費改善と走行距離減少により大幅に改善されました。

都市ガスおよび電力の増加主要因は劣化した空調機器で、稼働時は全電力消費の30～45%、ガス消費のほぼ全て、水消費の過半数を占めていました。2022年末に省エネタイプの機器に更新されるため今後は大幅な改善を見込んでいます。

(空調の電力消費約-30%、ガス消費約-20%)

— 交換作業中の空調機器 —



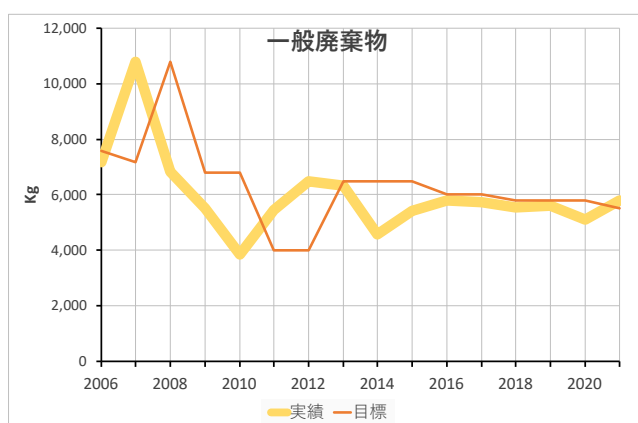
II. 廃棄物排出量の削減

目標項目	単位	2020 実績	2021 目標	2021 実績	前年比	目標 達成率
2 廃棄物排出量の削減 (製品ton当たり)	kg/t	432.96	391	427.54	-1%	91%
廃棄物総排出量	Kg	62,952	45,500	49,766	-21%	91%
2.1 一般廃棄物	kg	5,110	5,500	5,800	+14%	95%
2.2 産廃排出量	kg	57,842	40,000	43,966	-24%	90%
製品生産量	ton	145.4		116.4		

取組結果

★一般廃棄物

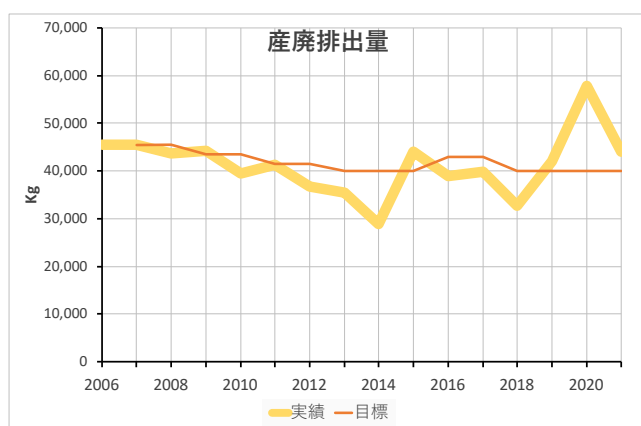
目標項目	単位	2020 実績	2021 実績	前年比
OA紙	kg	220	260	+18%
OA紙以外	kg	250	500	+100%
新聞紙	kg	110	150	+36%
雑誌類	kg	230	120	-48%
段ボール	kg	3,480	4,150	+19%
その他(機密・溶解処理)	kg	820	620	-24%
合計	kg	5,110	5,800	+14%



全体の約70%を占める段ボールが前年比670kg増加、その他一般廃棄物も増加傾向となりました。倉庫解体に伴う廃棄物整理の影響が大きいと思われます。

★産業廃棄物

目標項目	単位	2020 実績	2021 実績	前年比	
金属くず	kg	19,448	22,476	+16%	
廃油・廃酸	kg	30,460	16,800	-45%	切削油、洗浄液など
木くず	kg	2,310	1,720	-26%	使用済み木製パレット
混在	kg	5,160	2,970	-42%	梱包材、廃プラ、ゴム、ガラスくず等
その他	kg	464	0	-100%	廃棄基板、電線等
合計	kg	57,842	43,966	-24%	



倉庫解体準備で金属くずを一斉処分したことで目標の4,000kgには届きませんでした。その他の項目はほぼ予定通りの実績となりました。

評価と次年度取組内容

資材及び廃棄物保管倉庫の解体準備として各種廃棄物の一斉処分を実施しました。今後は保管場所が縮小するため廃棄する頻度が上がる可能性があります、年間排出量への影響は少ないと考えられます。

(倉庫は2022年10月解体済み)



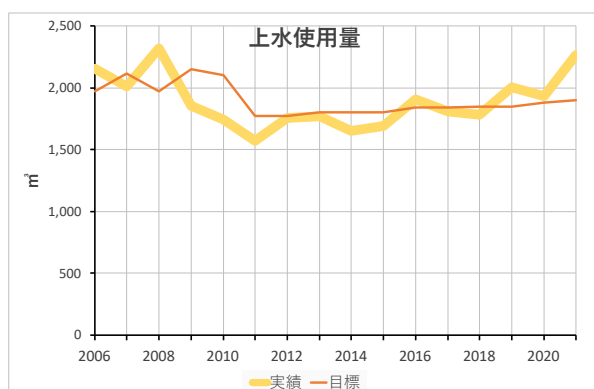
解体前



解体後

III. 上水使用量の削減

目標項目	単位	2020 実績	2021 目標	2021 実績	前年比	目標 達成率
3 上水使用量の削減 (製品ton当たり)	m ³ /t	13.29	16.33	19.47	+47%	81%
上水使用量	m ³	1,932	1,900	2,266	+17%	81%
製品生産量	ton	145.4		116.4		



取組結果

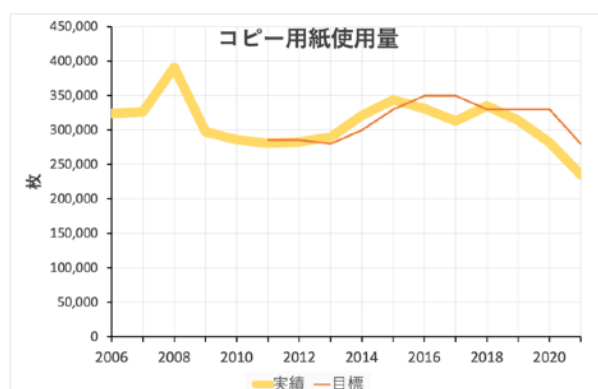
水利用のほとんどを占める空調機器劣化に伴い使用量が大幅に増加しました。気候およびコロナ要因による空調稼働率増加も要因です。

評価と次年度取組内容

2022年秋以降は空調機入替により目標値達成可能と思われます。

IV. コピー用紙購入量の削減

目標項目	単位	2020 実績	2021 目標	2021 実績	前年比	目標 達成率
4 コピー用紙購入枚数 (A4換算)	枚	281,750	280,000	235,250	-17%	116%



取組結果

2018年以降順調にコピー紙購入枚数の削減が進んでいます。各種資料類のPDF化が進んでいることが結果に繋がっていると考えられます。

評価と次年度取組内容

業務システムの改善によるペーパーレス化を推進し、使用量削減を進めていきます。

V. 化学物質の管理100%達成

取組結果とその評価

・SDSの完備、・特定化学物質の使用量集計（3ヶ月毎、約40品目）、・排出基準を超えた場合の届け出、・塗料・溶剤・洗剤の購入・使用・管理に関する下記5ポイント。

- I. 危険物倉庫に保管、適正量を小出しする。
- II. 当用買い、不要なストックをしない。
- III. 塗料・溶剤等の缶は必ずフタをする。
- IV. 塗料・溶剤は使い切る。
- V. 廃缶は所定の場所に保管する。

チェックリストを用いた毎日の管理、月1回の安全パトロールなどを通して、化学物質の100%管理を確認することが出来ました。

次年度取組内容

2022年度も同様の取組を継続します。

VI. RoHS規制対応資材の購入100%達成

取組結果とその評価

RoHS規制対応を要求された製品、および規制対象の新規開発品にはRoHS規制対応資材を用いること。

今年度は新規製品がありませんでした。既存製品に関しては100%適応が継続されています。

次年度取組内容

2022年度も同様の取組を継続します。

VII. 環境配慮製品の拡販

目標項目		単位	前年実績	2021目標	2021実績
7	エコモード搭載オートパイロットの販売	%	100%	100%	100%

取組

小型船舶の操舵を自動化するオートパイロットの販売において、潮流や風の影響による、燃料消費増加・タイムロスなどを軽減する、独自のエコモード搭載機種（特許申請中）の販売率100%を目指す。

結果

2021年はオートパイロット全機種がエコモード搭載機種になりました。

評価と次年度の取組内容

エコモード搭載機種への移行を完了しました。今後は高度な技術確認を活用した自動操船機器の開発と製品化を目指し、持続可能な水産業、クリーンエネルギー産業、人々の自由な移動などをサポートするとともに成長を目指します。

環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

I. 適用される主な環境関連法規制等

適用される主な法規	主な適用事項	遵守評価
振動規制法	・ 特定施設の設置、変更の事前届け出	遵守
	・ 規制基準以下の遵守	遵守
騒音規制法	・ 特定施設の設置、変更の事前届け出	遵守
	・ 規制基準以下の遵守	遵守
兵庫県条例大気汚染防止に関する条例	・ 特定施設設置、変更、廃止等事前届け出	遵守
水質汚濁防止法	・ 特定施設設置、変更、廃止等事前届け出	遵守
廃棄物処理法	・ 一般廃棄物、産業廃棄物、水銀使用製品・産業廃棄物の運搬または処分を許可業者に委託する。	遵守
	・ マニフェストの交付と回収	遵守
	・ マニフェスト写しを5年間保存する。	遵守
	・ 産業廃棄物管理票交付状況報告を提出	遵守
PRTR法	・ 特定化学物質の排出量移動量の把握と記録、基準値以上の取扱量の場合行政に報告	遵守
有機溶剤中毒予防規則	・ 作業主任者の選任	遵守
	・ 局所排気装置の自主点検	遵守
	・ 保護具の着用、半年に1度の健康診断	遵守
消防法	・ 屋内貯蔵所の届け出	遵守
	・ 少量危険物貯蔵所の届け出	遵守
	・ 消防設備等点検結果報告（3年に1度）	遵守
エネルギー使用の合理化に関する法律	・ 熱、電気を合算した使用量が一定以上になれば届け出 指定工場・事業所となる。	遵守
自動車リサイクル法	・ 使用済み自動車の適正処理	遵守
フロン排出抑制法	・ 空調機器の3ヶ月に1度の簡易点検(H27.4施行) ・ 使用済み業務用エアコンの適正処理 ・ 地方自治体の条例の適用	遵守
水銀汚染防止法	・ 水銀ランプ、蛍光灯に含まれている水銀量が、各々の規制値以下とする ・ 産業廃棄物として保管、廃棄の適正処理	遵守

II. 法令違反、訴訟等の有無

- ・ 定期的に実施する上記遵守評価の結果、環境関連法規等への違反や訴訟はありませんでした。
- ・ 尚、関係当局からの違反の指摘は過去3年以上ありません。

代表者による全体評価と見直しの結果と指示

I. 全体評価

2021年度は都市ガス、水道水が大きく増加しましたが、その原因の空調機は2022年秋に更新のため今後は大きく改善される見込です。

2022年夏には倉庫の解体を実施するため、準備として大幅な整理整頓の結果一時的に廃棄物の増加となりました。

この様な特殊要因を除けば各管理項目の継続的な改善は進んでいます。

特に自動車燃料に関してはハイブリッド車増加に伴う大幅な燃費の改善と、コロナ禍による出張機会減少により10年前の約1/2まで使用量を減少することが出来ました。

なお、製品ton当たり目標は、コロナ禍の影響や近年のトレンドもあり、出荷製品重量が重たい大型機器から電子機器にシフトしたことで減少し、目標を上回りました。

当面はコロナ禍の影響による資材不足が続くため出荷重量は不安定な状況が続くと思われます。

II. 見直しの結果と指示

2021年度は設備の老朽化などにより目標達成出来なかった項目もありますが、2022年度以降は更新の効果が期待できます。環境経営システムおよび計画は有効に機能しており、実施内容を継続します。また、目標値は設備更新の効果を見ながら随時見直します。

2022年度以降の取組内容

I. 2022年度からの中期目標（2022年6月設定）

2021年度の実績を基準とし、ハイブリッド車などの導入による改善効果の織り込み、またコロナ対策による影響などを考慮し、一部目標を見直します。

目標項目		単位		2022 目標	2023 目標	2024 目標	設定の変更
1	1.1 電力使用量の削減	kWh	旧	500,000	500,000		2021年度実績を元に目標値変更。 空調機器変更に伴う効率アップは2022年度実績を元に翌年反映予定。
			新	530,000	530,000	530,000	
	1.2 自動車燃料（燃費）	km/l	旧	17.00	18.00		燃費改善の実績と今後の改善を見込み目標修正した。
			新	18.00	18.00	18.00	
	1.2 自動車燃料使用量	リットル	旧	27,200	27,200		燃費改善およびコロナ後の出張頻度変化を見込み目標修正した。
			新	22,000	22,000	22,000	
	1.3 都市ガス使用量	m ³	旧	50,000	50,000		空調機器更新による使用量削減を見込み目標修正した。
			新	48,000	45,000	45,000	
	2.1 一般廃棄物	kg	新	5,500	5,500	5,500	目標変更なし
	2.2 産廃排出量	kg	新	40,000	40,000	40,000	過去の実績平均維持
3	水使用量	m ³	旧	1,900	1,900		2022年度後半の空調機器変更にともなる増減を反映し修正した。
			新	2,000	1,800	1,800	
4	コピー用紙購入量	枚	旧	280,000	280,000		目標達成したためさらに削減を目指す。
			新	240,000	240,000	240,000	

II. 2022年度環境レポート発行

2023年9月を予定しています。



マロール株式会社

〒653-0037
神戸市長田区大橋町2丁目1番34号
tel : 078-611-2158
fax : 078-641-5856
<http://www.marol.co.jp>